安心・安全・命だいじ

河内長野市立加賀田中学校

令和８年10月２６日

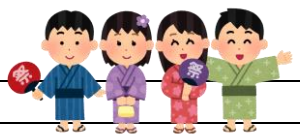
『奥河内・岩湧の郷夢学園』

http://www.kawachinagano.ed.jp/kagachu/

《１１月の行事予定》△午前中授業　★部活動なし、一斉下校　▲給食なし（で昼食が必要◇）

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	日		16	月	期末テスト範囲表配布
2	月	４５分×６時間授業　会議日　★	17	火	45分×６時間授業　研修日　★
3	火	文化の日	18	水	４５分×６時間授業　★ 会議日
4	水	45分×４時間授業（南河内地区研修）△★▲ ※３年進路懇談の日は３年生のみ４時間授業	19	木	45分×６時間授業　会議日　★ 薬物乱用防止教室（２年） 市内なかよし卓球大会
5	木	４５分×６時間授業　３年進路懇談① １・２年ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ①　ノークラブデー 諸費引落日　★	20	金	検尿予備日　★ 駅伝・マラソン前健康相談
6	金	４５分×６時間授業　３年進路懇談② １・２年ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ②	21	土	土曜参観（５限）　★▲◇ PTA 講演会（６限）
7	土	※小中合同あいさつ運動 10 日(火)～12 日(木)	22	日	
8	日	英検２次	23	月	勤労感謝の日
9	月	４５分×６時間授業　３年進路懇談③ １・２年ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ③	24	火	土曜参観代休
10	火	４５分×６時間授業　３年進路懇談④ １・２年ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ④	25	水	期末テスト　▲★△
11	水	第２回３年実力テスト(３年は５限まで)★	26	木	期末テスト　▲★△ 学校運営協議会１９：００～
12	木	４５分×６時間授業 検尿２次　会議日　★	27	金	期末テスト　▲★△
13	金	小中ｸﾘｰﾝｷｬﾝﾍﾟｰﾝ（１年）　★ 着付け教室（２年）PTA 運営委員会 19：00～	28	土	
14	土		29	日	
15	日		30	月	





12月の予定

２日（水）　歯科衛生指導（１年）
　　職場体験事前訪問（２年）
４日（金）　小学生中学校体験
７日（月）　専門委員会
１０日（木）～１１日（金）職場体験学習（２年）
１５日（火）　全校集会
１７日（木）～２２日（火）学期末懇談会▲★△
１８日（金）　駅伝・マラソン大会
２４日（木）　終業式
２５日（金）～1月7日（木）冬季休業
12/28（月）～1/3（日）　学校閉庁日



学校へ依頼のある配布物を電子化！

河内長野市
小中学校チラシ等
掲載ページ

https://sites.google.com/kawachinagano.ed.jp/knhaifu/home

毎週月曜日更新

【令和８年第46回体育大会について】

秋晴れの心地よい気候のもと、１０月３日（土）に体育大会を開催いたしました。保護者や地域の皆さまにおかれましては、子どもたちにあたたかな声援と大きな拍手を送っていただき、誠にありがとうございました。今年の体育大会は練習期間中に雨が多く、グラウンドでの練習が十分に確保できない厳しいコンディションの中で当日を迎えました。しかし、そのような状況にも負けず、子どもたちは全力を尽くして競技や演技に取組みました。一生懸命に頑張る姿を周囲の方々に応援していただけることが、子どもたちの大きな力とモチベーションにつながるのだと、改めて実感した一日となりました。今後とも、子どもたちへのあたたかなご支援と見守りを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

『綱引き』



『赤団応援合戦』



『青団応援合戦』



『結果発表』



【第３１回加賀田フェスティバル】

１０月１１日（日）、健全育成会主催の「第３１回加賀田フェスティバル」が本校グラウンドにて開催されました。復活した「だんじり」を子どもたちが地域の方々と一緒に曳航（えいこう）する姿は大変勇ましかったです。模擬店も大盛況となり、多くの来場者で賑わいました。本校は支援学級による「玉入れ」のコーナーとバザーの出店を行いました。PTAの皆さまのお手伝いもあり、スムーズに運営できました。売上金(9,780円)は、支援学級の自立活動の教育費に充てさせていただきます。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

【1年生人権教育講話・演奏会】

１０月１４日（水）視覚障がいのある田中玲子さんをお招きし、講話とハーモニカ演奏を聴きました。全盲でありながらあきらめずにスポーツや音楽に挑戦し続ける生き方に触れ、子どもたちにとって人権や困難な状況でも挑戦する大切さを深く学ぶ機会となりました。

【英語検定の結果発表について】

一次試験の結果は１０月26日（月）よりwebで順次発表されます。二次試験は１１月８日（日）に実施され、結果は11月下旬発表予定です。なお4級と5級に限り、今回不合格の場合でも、本校で受験する場合、第3回の指定日程にて再受験（無料）で、受け直すことが可能です。

【歌声溢れる校舎】

１０月２９日（木）に文化発表会を実施いたします。1学期から音楽の授業で練習を重ねてまいりましたが、体育大会が終わってからはクラスでの本格的な合唱練習が始まっています。校舎内を巡ってみると、パートリーダーや文化委員が主体となって練習を進行しており、声量やまとまり、ハーモニーなど、「さすがは3年生」と感心させられることばかりです。しかし、1年生には1年生の、2年生には2年生の、それぞれの学年の良さやカラーが、歌からあふれ出ており、今から本番がとても楽しみです。ぜひご来校いただき、子どもたちの心のこもった歌声をお楽しみいただければ幸いです。





【土曜参観】

１１月２１日（土）に、土曜参観を実施いたします。今年度は５限目（13：00～）に授業参観、６限目（14：10～）にPTA講演会を行います。講演会では、『せかいにひとりだけのぼく』著者の竹紫春翔（ちくしはると）さんをお招きし、「性別の枠を越えて考える、命と個性の大切さ」をテーマにご講演いただきます。授業参観、講演会ともにぜひご参加ください。

校長だより　10 月号

SNS 見続け無限スクロール、気付けば 1 日 11 時間使う

今回は 10 月の全校集会で子どもたちに話したことを掲載させていただきます。

全国学力学習状況調査の生徒質問で「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等で SNS や動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）という質問項目がありました。

本校の結果、「平日に 1 日 3 時間以上、スマホ等で SNS や動画を見る（60.0%）」割合は府や全国より高い結果となりました。このことについてこんなネットニュースを先日見つけました。

『SNS 見続け無限スクロール、気付けば 1 日 11 時間使う「ドパガキ」中学 2 年…スマホは「命」「人生」「お金の次に大事」』2026/10/05 06:00（読売ニュース）

SNSを見続け、気付けば何時間も過ぎている。そんな「SNS依存」の若者が増えている。心身の健康への影響が懸念されており、海外では未成年の利用を制限する動きが起きている。

9月中旬、ファッションビルが立ち並ぶ大阪・梅田の茶屋町。大阪市の中学2年という女子生徒3人が、カラフルなケースに入ったスマホを手に歩いていた。

「みんなにとって、スマホはどんなもの？」と記者が質問すると、3人はそれぞれ「（スマホは）命」「人生」「お金の次に大事なもの」と答え、こう口をそろえた。「私たち、『ドパガキ』だもんね」

「ドパガキ」とは、神経伝達物質であるドーパミン中毒の子供（ガキ）という意味の若者言葉だ。SNSで刺激的な投稿や動画を求め続ける若者を揶揄する文脈で使われることが多い。

3人が夢中なのはSNSの「インスタグラム」や「ティックトック」。同世代のダンス、若者に人気の中華料理「麻辣湯」、カプセル玩具の開封動画……。スマホ画面を指でスクロールするたび、魅力的な動画が次々と流れてきて、つい見入ってしまう。

3人に設定画面でスマホの利用時間を見せてもらった。3人とも1日平均5～6時間で、中には日曜に11時間使っていた子もいた。「勉強中でも気になって、こっそり触ってしまう」「夜更かしして動画を見て、授業中寝てしまう」と話した。

うち一人の女子生徒（14）は取材の最後、少し申し訳なさそうにこう言った。「スマホを触っている間は楽しいけど、宿題が終わっていない現実に戻ると後悔するんだ」

「脳みそがへばりついている」ネット依存に

SNSには、利用者が思わず長時間利用し続けてしまうような仕掛けがある。

「いいね」を押したり検索したりした履歴から利用者が興味のありそうな投稿を優先的に表示する**アルゴリズム（処理手順）**があり、そんな投稿が指先で画面をスクロールすることで次々に表示される機能は**「無限スクロール」**と呼ばれる。

「脳みそがへばりついているような感覚」。関東在住の30歳代の女性は大学時代からSNSにはまり、かつては1日10時間以上スマホを手放せなかった。

「時間を無駄にしている」と自己嫌悪に苦しみ、精神的に不安定になった時期もあった。タイマーをかけて長時間の利用をやめようとしたが、うまくいかなかった。今はインターネット依存の自助グループに通い、徐々に回復しているという。「自分一人では抑制できない。私みたいな人は、世の中に大勢いるのでは」と話す。

実はSNSの使い過ぎは現在、WHO（世界保健機関）は「現時点では、病気として捉えていない」とする。

ただ、国立病院機構久里浜医療センター（神奈川）が2025年の調査では、回答した約4500人のうち1・7％が「SNSの病的使用疑いあり」と推計された。若年層ほど高く、10歳代は7％に上った。

子供は大人に比べて欲求をコントロールする力が未熟で、SNSへ依存するリスクはより高くなるとされる。

海外で進む、若年層のSNS利用禁止

海外では今、未成年の SNS 使用が禁止になったり、規制したりして「未成年をSNSに近づけるべきではない」との声が大きくなっている。豪州では昨年12月、若年層のSNS利用禁止法が施行された。インスタグラムやX（旧ツイッター）などの事業者は16歳未満のアカウント取得を防ぐ義務を負い、違反すれば罰金も科される。米カリフォルニア州では今年9月、「無限スクロール」などの機能を16歳未満に提供することを禁じる州法が成立した。

日本では、年齢で一律に制限することは、憲法が保障する表現の自由や知る権利を侵害しかねないとの意見もある。こども家庭庁の有識者会議が7月にまとめた中間報告では、海外での規制の動きを踏まえ、「政府で引き続き議論を重ね、実態に即した保護の在り方を構築することが重要」とするにとどまった。

もし、一律で未成年者に規制しても、年齢をごまかすなど、「抜け道」はいくらでもあり、罰則でもない限り、その抜け道を見つけて密かに使い続けるだけなのだと思います。なんか、薬物中毒にも似ているように思います。間違いなく近いうちに数年前に病気として認定された「ゲーム障害」のように正式に病名がつくのだと思います。

本来なら私たちはネットをうまく活用して、幅広い人生を歩むひとつのツールとして使いこなさなければならないはずですが、上の例では、むしろネット、SNSに操られてしまっているように思えます。さらに言えば、これからますますネットや SNS は進化を遂げ、もっともっと人々の生活にどっぷりと侵入してくるように思えます。

だからこそ、正しく使えない人には、ひょっとしてこういった規制が必要なのかもしれませんが、でも、まずはこういったリスクがあることをわかってみんなが賢く使いこなせるようになってほしいと感じました。